

Diversity
paints
the future.



日本パラリンピック委員会 調査報告書2024

JPC 2024 Paralympic Delegation and National Federations Survey

Diversity paints the future.

未来は、多様性で彩られる

日本パラリンピック委員会(JPC)は、公益財団法人日本パラスポーツ協会(JPSA)の内部組織として
1999年8月20日厚生労働省の認可を受け発足してから、2024年で25年が経過しました。

2015年からスポーツ庁が主管省庁となり、パラスポーツが“障がい者福祉”の領域から
“競技スポーツ”へと新たな歩みをはじめ、まもなく10年になります。

これらの節目において開催されたパリ2024パラリンピック競技大会を機に
JPCとして初となる日本代表選手団及び各競技団体に向けた総合的な調査を実施し、
アスリートやスタッフが感じている様々な課題や要望を把握することができました。

調査を通していただいた多様な声や視点を大切にしながら
JPCは、競技団体をはじめ関係するみなさまとともに
パラアスリートやスタッフが活躍できる環境づくりに取り組んでいきます。

Diversity paints the future.



パリ2024大会の基本情報

大会概要

- 大会名称** パリ2024パラリンピック競技大会 / Paris 2024 Paralympic Games
- 開催期間** 2024年8月28日(水)～9月8日(日)(12日間)
- 開催地** フランス共和国・パリ市
- 運営主体** 国際パラリンピック委員会(IPC)、
パリ2024オリンピック・パラリンピック組織委員会
- 参加国・地域** 167か国・地域、及び難民選手団
- メダルイベント数** 22競技・549種目(男子271種目 女子235種目 混合43種目)
※日本代表選手団は、実施22競技中21競技に参加
- 日本代表選手団** 330名(アスリート175名、競技パートナー19名、競技スタッフ107名、本部29名)
- 日本代表選手団スローガン** 挑め、自分史上 最強。

日本代表選手団成績



注目ポイント

東京大会を上回る金メダル数



男子・混合の団体競技において日本史上初の金メダル



過去最多となる8競技での金メダル獲得



パリ2024大会 日本代表選手団調査

調査概要

- 対象** パリ2024大会に参加した日本代表選手団
- 形式** オンラインアンケート調査
- 期間** 2024年9月10日～9月23日
- 回答率** 98.7% (297/301人)
※本部スタッフを除く ※本調査における「アスリート」には、競技パートナー(n=19)を含みます
- 内容** 調査1:パリ2024大会前後の振り返り
調査2:パラリンピック競技大会に向けた環境調査
調査3:アスリートパスウェイ実態調査



実施競技・会場 (全22競技)

アーチェリー	Invalides(アンヴァリッド)
陸上競技	Stade de France(スタッド・ド・フランス) マラソンスタート: La Courneuve(ラ・クールヌーヴ) マラソンフィニッシュ: Invalides(アンヴァリッド)
バドミントン	Porte de la Chapelle Arena(ポルト・ド・ラ・シャペル・アリーナ)
ブラインドフットボール	Eiffel Tower Stadium(エッフェル塔スタジアム)
ボッチャ	South Paris Arena(サウス・パリ アリーナ)
カヌー	Vaires-Sur-Marne Nautical Stadium(ヴェール・シュル・マルヌ・ノーティカル・スタジアム)
自転車	トラック Saint-Quentin-En-Yvelines Velodrome (サン=カンタン・アン・イブリーヌ ベロドローム) ロード Clichy-Sous-Bois(クリシー=ス=ボワ)
馬術	Chateau de Versailles(ヴェルサイユ宮殿)
ゴールボール	South Paris Arena(サウス・パリ アリーナ)
柔道	Champ de Mars Arena(シャン・ド・マルス アリーナ)
パワーリフティング	Porte de la Chapelle Arena(ポルト・ド・ラ・シャペル・アリーナ)
ローイング	Vaires-Sur-Marne Nautical Stadium(ヴェール・シュル・マルヌ・ノーティカル・スタジアム)
射撃	Chateauroux Shooting Centre(シャートルー シューティング センター)
シッティングバレーボール	North Paris Arena(ノース パリ アリーナ)
水泳	Paris La Defense Arena(パリ・ラ・デフアンス・アリーナ)
卓球	South Paris Arena(サウス・パリ アリーナ)
テコンドー	Grand Palais(グラン・パレ)
トライアスロン	Pont Alexandre III(アレクサンドル3世橋)
車いすバスケットボール	Bercy Arena(ベルシー アリーナ)
車いすフェンシング	Grand Palais(グラン・パレ)
車いすラグビー	Champ de Mars Arena(シャン・ド・マルス アリーナ)
車いすテニス	Roland-Garros Stadium(ローラン・ギャロス スタジアム)

※パリ2024パラリンピック競技大会は、本ページ以降、パリ2024大会と表記します。

パリ2024大会前後の準備・環境

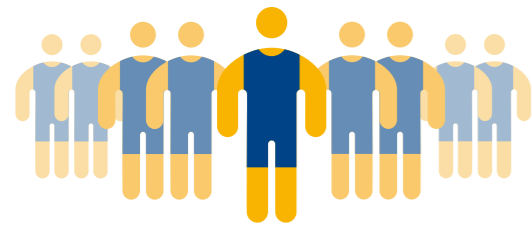
調査目的

本調査は、国際総合競技大会において、JPCが各競技団体、アスリート、スタッフを支援するうえで、今後の必要なサポートを検討するために実施しました。

パリ2024大会日本代表選手団について

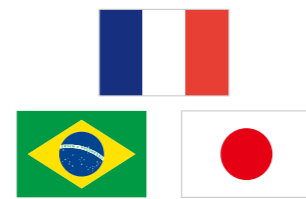
アスリート数 **175** 名

自国開催を除く大会で最も多くのアスリートが参加



アスリート平均年齢 **31.3** 歳

過去3大会で最も若い



30歳未満のアスリート **50.3%**

前大会:42.9%

女性アスリート割合 **42.9%**

前大会:41.7%

女性競技スタッフ割合 **33.6%**

前大会:29.9%

初参加のアスリート、または2回目参加のアスリート

約 **7** 割



初参加の競技スタッフ、または2回目参加の競技スタッフ

約 **8** 割



パリ2024大会前後の調整 n=291

入村前に最高の準備ができたアスリート

28.9%



大会前後の調整に影響を与えた主な要因 自由記述 / n=147

事前合宿

回答したアスリートの19%が記載

「時差の調整や気候などの環境適応ができた」など、事前合宿は良かった要因として最も多くの記載があった。一方、合宿地からの移動を含めた本番直前のタイトなスケジュールへの課題感も露出した。



入村スケジュールと会場の慣れ

回答したアスリートの15%が記載

「入村から選手村に慣れるまでの時間が確保できなかった」「公式練習までの時間が短かった」など、入村から公式練習、試合までが慌ただしく、十分な準備ができなかったという意見があった。



パリ2024大会特有の環境要因 自由記述 / n=190

気温・気候

回答したアスリートの22%が記載

「会場や移動中の気温差が激しく体調管理が難しかった」「寒さに対する準備がなかった」など、夏の暑さより、寒さや寒暖差に関する記述が多く見られた。一方、「過ごしやすい気温・気候がポジティブに働いた」といった回答もあった。



移動

回答したアスリートの17%が記載

「選手村から会場まで距離があり、移動に疲れてしまった」という意見が目立った。そのほか、「バスの空調が合わなかった(暑い)」「バスの便数が限られていて効率的な動きができなかった」という意見もあった。



大会前後に必要なサポート

大会前、誹謗中傷に不安を少しでも感じたアスリート

13.4%

n=189

選手村のリラクスルームに「大変満足した」・「満足した」アスリート

72.8%

n=114

大会期間中に必要と思うサポート 自由記述 / n=114

食事・カフェ

「日本食・補食の提供を充実させたい」という意見が多かった。



プライベートスペース

「ひとりになれるスペースがほしい」というプライベートな空間を求める声が目立った。



JPCは、パラリンピック競技大会を含む国際総合競技大会への派遣手続きや、アスリートの強化・育成に関わる活動を関係団体と連携しながら実施、支援しています。

パリ2024大会での新しい取り組み

Home in Paris (リラクスルーム)

パリ2024大会では、選手村内にアスリートやスタッフがリラックスできるスペース「Home in Paris (リラクスルーム)」を初めて設置しました。



初参加のアスリートやスタッフが多かった今大会において、事前の準備の重要性が明らかになりました。今後の大会においては、競技団体にとって必要な大会前・大会中の準備やサポート体制を想定し、関係機関と連携し整えていくとともに、IPC*や組織委員会からの情報を積極的に共有していきます。

*IPC:国際パラリンピック委員会



心理・栄養・アスリートパスウェイに関する調査

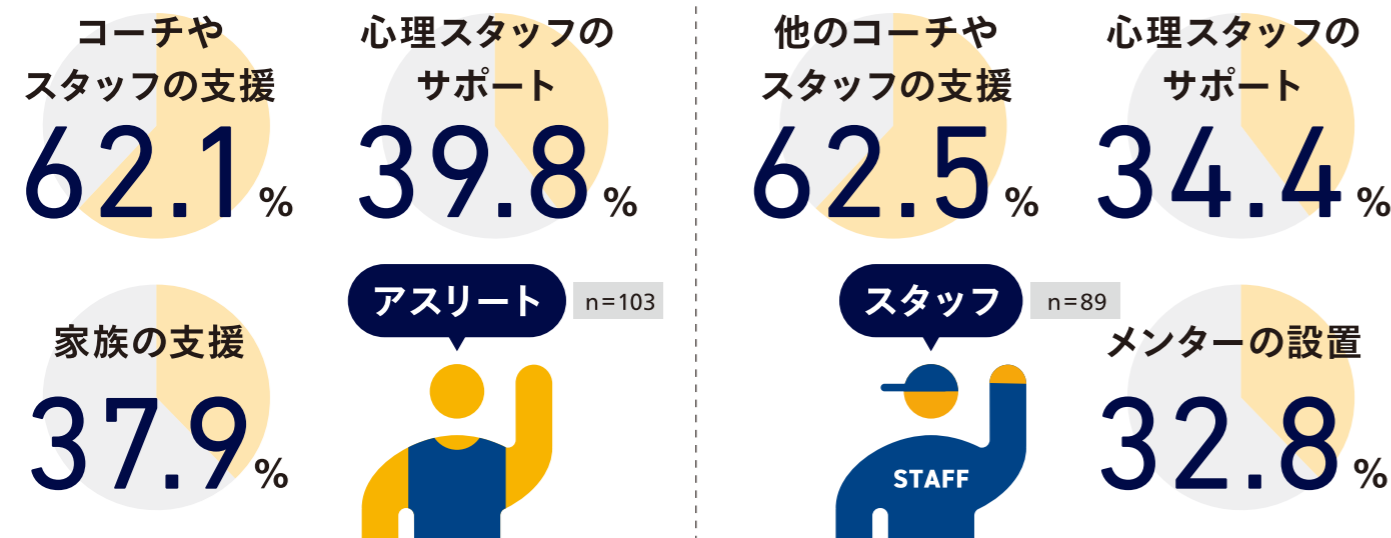
調査目的

本調査は、JPC強化本部がハイパフォーマンスレベルのアスリートに対する強化案作成、およびアスリートを支援するスタッフのサポート体制確立に向けて調査を実施しました。

心理基礎調査について

パリ2024大会に派遣されたアスリート約60%、コーチ・スタッフ約63%が、心理的な課題を感じていました。課題に対して必要なサポートについては、アスリート、コーチ・スタッフともに回答の多い順に「コーチ・スタッフのサポート」、「心理スタッフのサポート」が必要と回答しています。

Q パラリンピック期間中にはどのようなサポートが必要と感じたか アスリート・スタッフ回答



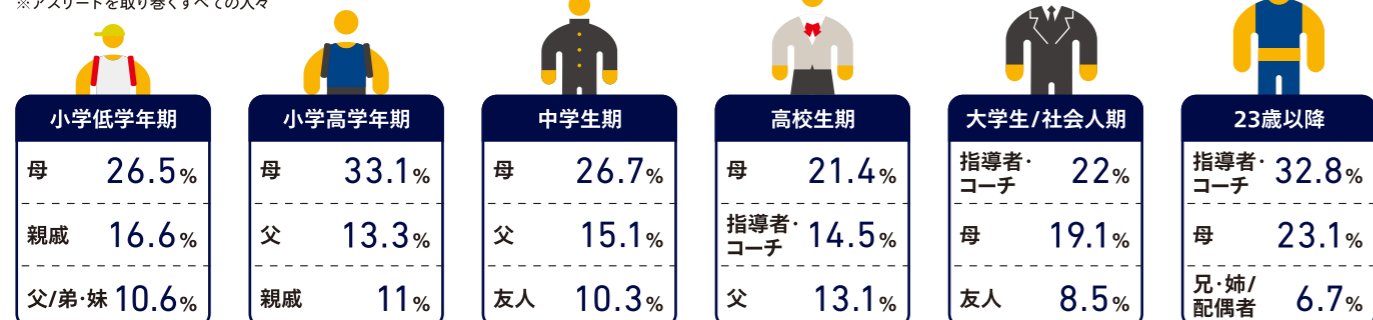
パスウェイ実態調査について アスリート回答 / n=159

日本人パラアスリートのパスウェイにおいて、母親はどの年代でも重要なサポーターであったことが分かりました。また、大学生期以降では、指導者やコーチが主要なサポートを担っていくことも示されました。

幼少期のスポーツ経験数 平均 **1.2** (±1.4) 競技 経験あり **20%**

各年代で財政的・情動的支援を行う主なアントラージュ※

※アスリートを取り巻くすべての人々

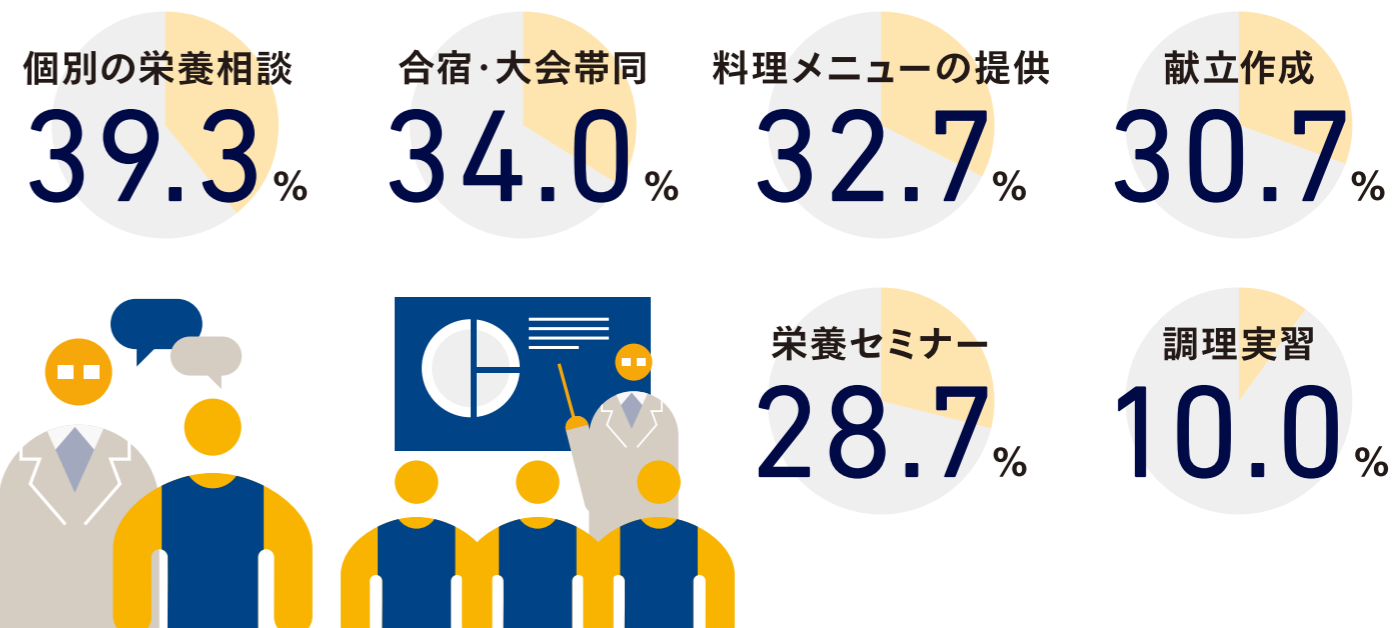


栄養基礎調査について

パリ2024大会に派遣されたアスリートの約60%が定期的に栄養サポートを受けていました。競技団体の栄養サポートの取組状況では、「とても・まあまあ・少し」取り組んでいるアスリートが60%以上。受けている栄養サポートについて、ほとんどのアスリートが「満足している」こともわかりました。今後希望する栄養サポートとして、「個別の栄養相談」や「合宿・大会の帯同」という回答が多く、現在サポートを受けていないアスリートからは「栄養サポートを受けたい」と希望する意見が多くあがりました。



Q 競技力向上のために、栄養サポートを受けるとしたら、どのようなサポートを受けたいですか 複数回答/アスリート回答 / n=150



JPC強化本部

JPC 戦略計画に基づき、JPC、JPC加盟競技団体に所属するアスリートの発掘・育成・強化のための活動を支援します。

トップアスリートの強化に関すること

総メダル獲得数、メダル獲得競技数の最大化を図るため、競技団体に必要なサポート体制について助言する。また強化スタッフに対し、競技力向上に繋がる情報や資質向上に関する学びと交流を提供する

派遣に関すること

JPCが派遣する国際総合競技大会の日本代表候補選手の競技力や各競技団体の派遣体制を確認する

JPC強化本部の役割

強化費配分に関すること

JPC加盟競技団体の強化費配分の評価に関する事項について助言を行う

アスリートの発掘・育成に関すること

各競技団体に於ける競技別パスウェイモデルの構築やアスリートの発掘・育成について、サポート体制を検討・助言する

パリ2024大会に派遣されたアスリート、コーチ・スタッフの半分以上が、パラリンピック期間中に心理的サポートを必要としていることが明らかになりました。パラリンピック期間のみならず日頃の強化現場においてアスリートおよびコーチ・スタッフが気軽に心理・栄養等の各領域サポートにアクセスできる環境づくりが必要です。また、アスリートの発掘・育成・強化の各段階で支援を行う主なアントラージュが変化することから、アスリートだけでなくアントラージュも巻き込んだ理解促進や情報共有を進めていくなどの体制を検討していくことが重要です。

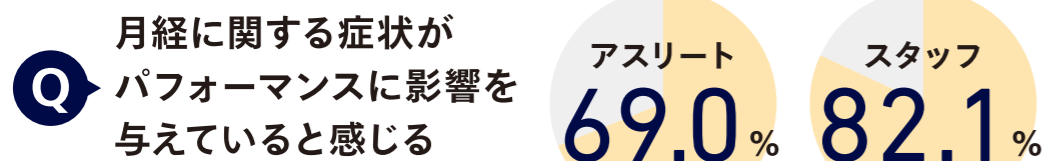


妊娠・出産・子育て等に関する調査

調査目的

本調査は、JPC女性スポーツ委員会が妊娠・出産・子育て等の実態を調査し、男女ともにアスリートやスタッフの支援をさらに充実・改善させていくために実施しました。

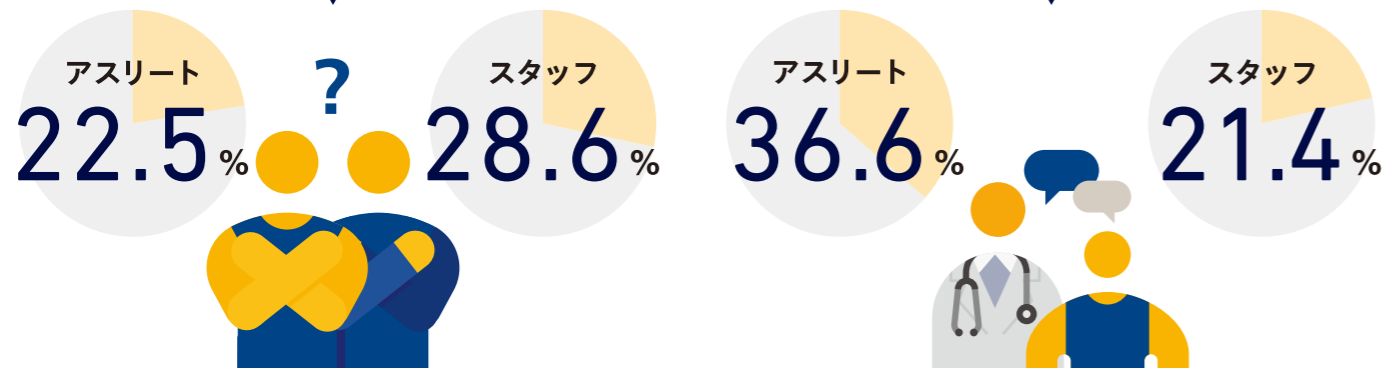
月経について 女性アスリート・女性スタッフのみ回答 / n=90



月経による症状が競技に影響を与えているアスリート/スタッフのうち

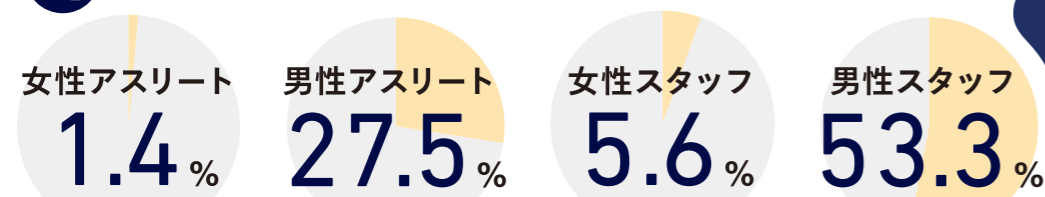
特に何も対策をしていない

婦人科を受診している



妊娠・出産・子育てについて n=291

Q 成人前の子どもがいる 男女回答



産後の身体機能の回復に不安を感じている女性アスリート

女性アスリートのみ回答

72.1%

育児と競技の両立に不安を感じているアスリート

男女回答

57.0%

産休・育休の取得を不安に感じているサポートスタッフ

男女回答

46.2%
(アスリート:36.1%)



介護について n=136

Q 介護を経験したことがあるアスリートとスタッフ 男女回答



Q アスリートやスタッフが、主に不安に感じること

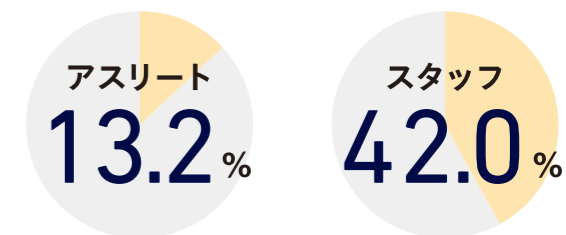
上位5項目/男女回答

- ▶ 練習・活動時間の確保
- ▶ パフォーマンスが落ちる
- ▶ 遠征中の対応
- ▶ 経済面
- ▶ 周囲の理解



更年期について n=183

Q 更年期に関する症状がパフォーマンスに影響を与えていると感じる 男女回答



Q パフォーマンスに影響を与える更年期症状

上位3項目/男女回答



JPC女性スポーツ委員会

女性パラアスリートの国際競技力向上に向けた調査研究、女性パラアスリートや競技団体への教育・啓発活動、子育て支援、各組織との連携・相談体制の構築に向けた事業や、大会での相談窓口設置やメールでの相談対応を行っています。



「月経に関する症状がパフォーマンスに影響を与えている」と感じている女性パラアスリートが69.0%と依然として多く、女性スタッフの82.1%が同様の不安を抱えながらアスリートをサポートしていることが明らかになりました。妊娠・出産・子育て時に生じる課題に不安を感じながら、さらに更年期や介護についても課題を抱えていることが男女ともに表面化しました。女性パラアスリートは競技年齢層が幅広いのが特徴です。生涯を通じ、それぞれのライフステージに合わせたサポートをダイバーシティの実現とともに検討していきます。



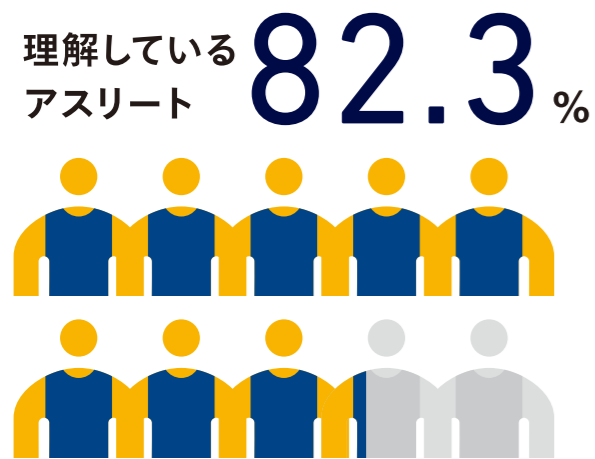
クラス分けに関する調査

調査目的

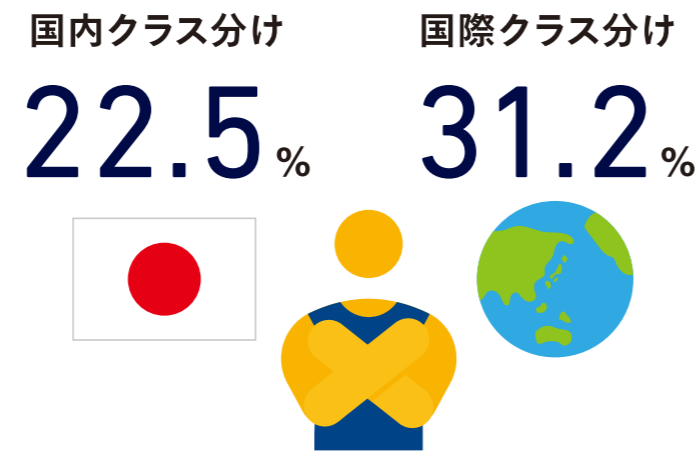
本調査は、すべてのアスリートとスタッフがクラス分けについて適切に理解を深めるとともに、国内のクラス分け体制の整備を進め、より充実した支援を実現するためにJPCクラス分け情報・研究拠点が実施しました。

クラス分けの理解と信頼について

国内・国際クラス分け規則を理解しているか アスリート回答 / n=174



クラス分けを全く または、あまり信頼していないアスリート アスリート回答 / n=174



クラス分けに対するアスリートの声

公平性、透明性が保たれていないように感じる

適切にクラス分けされるのか不安

クラス分けに対して真面目な選手とそうでない選手がいるような気がする

他の国の選手が嘘をついてクラス分けを通過しているような気がする

競技をはじめる際に自分の該当するクラスがあるか分からない

クラス分けを受ける上での課題は？ アスリート・スタッフ回答 / n=267

国内クラス分け

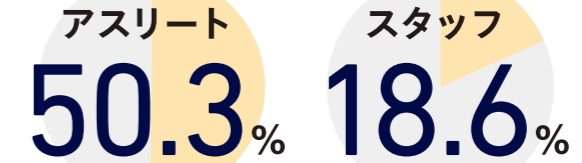
- ▶ 国内クラス分けを受けても国際クラス分けで結果が変わる不安がある
- ▶ クラス分けの手続きや基準が難しい
- ▶ 国内でクラス分けを受ける機会が少ない

国際クラス分け

- ▶ 英語でのコミュニケーション
- ▶ クラス分けの手続きや基準が難しい
- ▶ 競技クラスが変更になることに不安がある

意図的不実表示(IM)について アスリート・スタッフ回答 / n=267

意図的不実表示(IM)について「全く知らない」と答えた割合



意図的不実表示(IM)とは

クラス分けに関して、国際連盟やその担当者(例:クラス分けを行うスタッフ)をだましたり、誤解をさせようとしたりする行為を指します。例えば、偽造した診断書を提出したり、筋力評価の時に力が入らないフリをしたりする行為が該当します。IMと認定された場合は、1~4年の出場停止、場合によっては生涯出場停止という処分が下される極めて深刻な違反です。

下記項目がIMに該当することを知らなかった人の割合 アスリート・スタッフ回答 / n=267

疲れた状態でクラス分けを受ける **39.6%**

新しく始めた薬や手術のことを申告しない **23.4%**

他のアスリートに「誤魔化しなよ」とそのかす **18.2%**

クラス分けパネルに協力しない **15.5%**

筋力評価の時に、力が入らないフリをする **11.7%**

偽造した診断書を提出する **7.1%**

JPCクラス分け情報・研究拠点

JPCクラス分け委員会と連携し、クラス分けに係る「教育・研修」「国際情報の収集・共有」「調査・研究」「アスリート情報の管理」「ネットワーク構築」などの業務を一元的に担うことで、クラス分けの機能充実に向けた取り組みを進めます。

教育・研修

クラシファイア・クラス分け担当者の育成教育、アスリート・コーチ・スタッフ・ドクター等へ競技横断的な教育・研修

JPCクラス分け情報・研究拠点の役割

国際情報の収集・共有

競技別、障害別の最新情報とIF・IPC等の国際動向(規程改正等)の取得、NF共有

クラス分けに係る支援

医療機関との連携強化によるMDF作成支援等、医師・臨床心理士等による診断・書類作成の支援等

アスリート情報の管理

競技、クラス等のアスリート情報を一元的に管理

調査・研究

ハイパフォーマンススポーツセンター、大学、地域スポーツ医学センター、IF、IPC等と連携した調査、研究

※IF:国際競技団体 NF:国内競技団体

これまではNFが主体となって国内のクラス分け体制の整備やアスリートが国際クラス分けを受検する際の対応を行ってまいりましたが、加速する国際クラス分けの流れに対応できていない場合もあります。JPCクラス分け情報・研究拠点が設立されたことを契機に、JPCとNFがより強く連携しながらより良いクラス分け体制の確立を目指していきます。



アスリートキャリアに関する調査

調査目的

本調査は、JPCアスリート委員会がアスリートのキャリアやその課題、支援等に関する実態を把握し、JPCアスリート委員会等での活動や支援を充実させるために実施しました。

アスリート回答 / n=181

ロサンゼルス2028大会を目指す意向があるアスリート

59.7%



キャリアについて相談できる相手がいないアスリート

19.3%



アスリートがセカンドキャリアについて不安に感じていること

自由記述/アスリート回答 / n=119

アスリートとして得たスキルを活かせるか 17%

競技活動に専念できることはいいが、社会経験が積めないのが就職に不利になる等

漠然とした不安・仕事をイメージできない 12%

仕事につくイメージが持てない、先の見通しが立たない等

アスリートとして得たスキルを活かせるか 8%

競技キャリアを生かすべきか、全く違う職を探すべきかわからない等

競技以外へのやりがい 7%

競技以外に対してやりがいを感じる事ができるか不安、目標を見つけることができるか等



仕事があるか(雇用形態) 7%

引退年齢が高くなればなるほど就職できないのではと不安等

JPCアスリート委員会

JPC戦略計画に基づき、JPC及びJPC加盟競技団体等スポーツ関連団体の組織運営にアスリートの声を反映するとともに、主体的にパラリンピックムーブメントを推進します。

アスリート委員会設置の支援

JPC加盟競技団体内へのアスリート委員会設置の推進および運営補助



国際関係組織のアスリート委員との連携

IPC、APC[※]等のアスリート委員との情報共有や連携した活動



JPCアスリート委員会の役割

アスリートへの情報提供・共有

アスリートの資質向上、パラスポーツの価値向上のための事業等の企画・実施



アスリートのキャリア形成支援

アスリートのキャリア形成のためのサポート活動



※APC: アジアパラリンピック委員会

NF体制調査の結果

対象 JPC加盟競技団体
(夏季・冬季パラリンピック実施競技団体)
形式 オンラインアンケート調査
期間 2024年11月21日～12月20日

強化・育成に関わる体制調査

n=29

実施: JPC強化支援第1・2課

NFの指導者資格制度がある団体

44.8%

競技別パスウェイモデルを策定している団体

48.3%

※未公表含む

アスリート委員会を設置している団体

96.6%

国際役員、アンチ・ドーピング等に関する調査

n=25

実施: JPC国際課

日本国内(NF等)に地域役員[※]がいる団体

36.0%

※地域役員: アジア、アジア・オセアニア地域の国際役員

日本国内(NF等)にワールド役員[※]がいる団体

40.0%

※ワールド役員: 世界規模の組織役員、グローバル規模の組織役員

NFのアンチ・ドーピング活動を支援するスポーツファーマシストがいる団体

88.0%

妊娠・出産・育児等に関する体制調査

n=24

実施: JPC女性スポーツ委員会

NF強化指定選手等の妊娠・出産・子育て等に関連する方針・制度・規程がない団体

92.3%

(方針のある団体: 7.7%)

職員やサポートスタッフ等の妊娠・出産・子育て等に関連する方針・制度・規程がある団体

25.0%

クラス分け体制調査

n=28

実施: JPCクラス分け情報・研究拠点

NFクラス分け規則を策定済み[※]の団体
(障がい種別)[※]未公表を含む

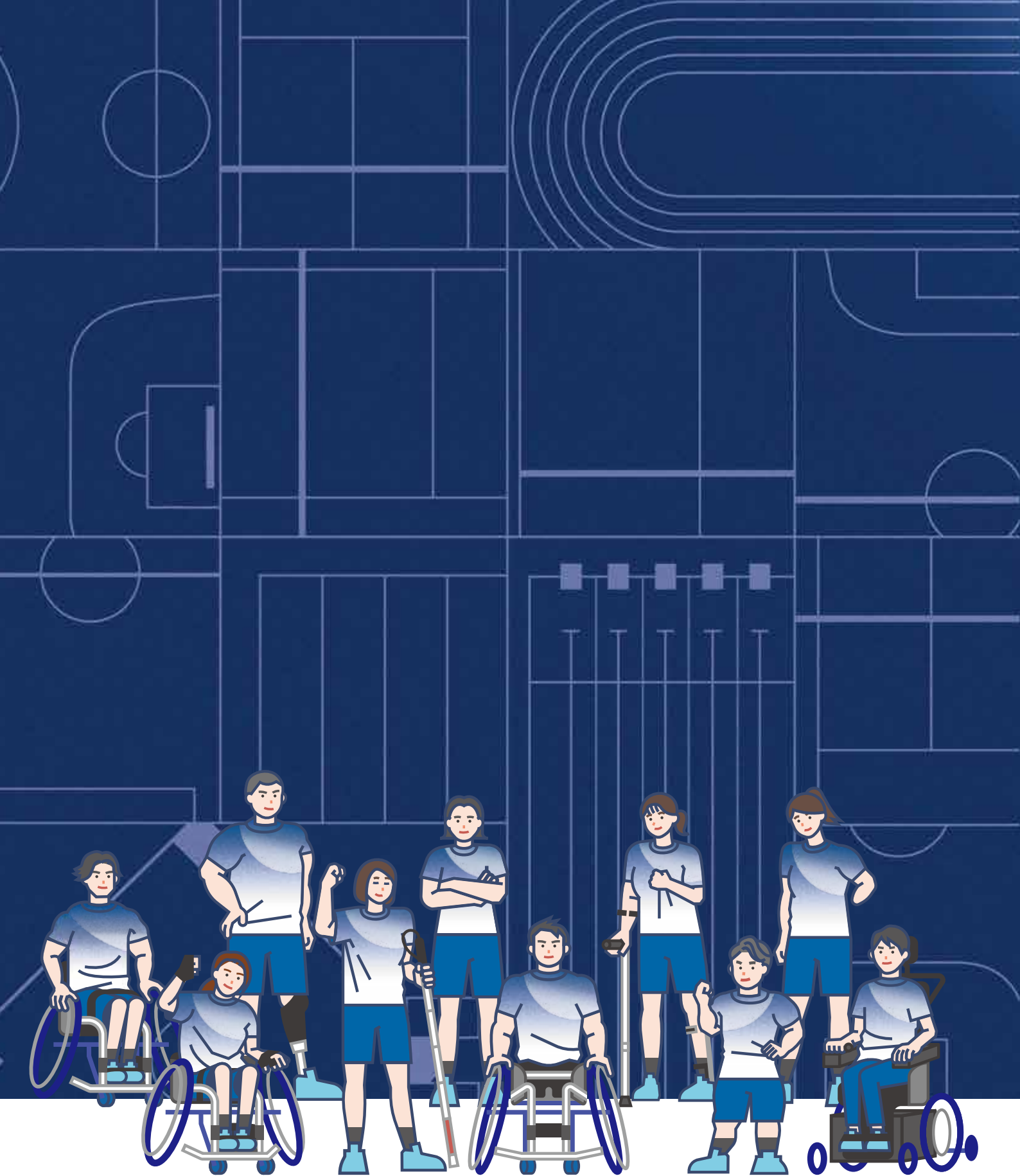
20.6%

NFクラス分け規則を作成中の団体
(障がい種別)

52.9%

国内クラシファイアの資格認定制度を有する団体
(障がい種別)

23.5%



公益財団法人日本パラスポーツ協会
日本パラリンピック委員会

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-13-6
TEL : 03-5939-7021 / FAX : 03-5641-1213



こちらのQRコードから
調査報告書の内容を
音声で聴くことができます。

